

和歌山市文化芸術推進基本計画
ヒアリング調査

和歌山市

1. 調査の概要

《調査の目的》

和歌山市文化芸術推進基本計画を策定するために、和歌山市内にて文化芸術活動を行っている文化芸術団体、障害者団体にヒアリング調査を実施した。

《調査期間》

令和元年10月～令和2年3月

《調査の手順と内容》

- (1) 和歌山市より調査対象に協力依頼
- (2) 和歌山市文化振興課および（一財）和歌山社会経済研究所がヒアリング調査
- (3) ヒアリング内容（質問事項）

【文化芸術団体】

- ① 団体の概要（結成の経緯・時期・人数・中心年代等）
- ② 団体の活動内容（練習場所・練習回数・発表の機会・発表の場所等）
- ③ 活動上の課題（人・予算・活動場所・広報等）現状と今後の展望
- ④ 市の文化施設について（料金・利便性・予約・バリアフリーなど）
- ⑤ 文化芸術に親しむ人の裾野の拡大について
（年齢・障害の有無に関係なく）
- ⑥ 和歌山市の文化をより豊かにするために

【障害者団体】

- ① 文化芸術における団体としての活動内容・頻度・経緯
- ② 文化芸術活動をするうえで必要な支援
- ③ 文化芸術活動における発表の機会・場所・頻度
- ④ 文化芸術に関する情報の充足度
- ⑤ 文化芸術活動において必要とする情報
- ⑥ 文化芸術活動の意義
- ⑦ 文化芸術に関する期待

《ヒアリング調査先》

和歌山市内にて文化芸術活動を行っている文化芸術団体及び、障害者団体に対し、個別対面式でのヒアリングを実施。

- ・文化芸術団体 7団体
- ・障害者団体 5団体

2. 調査結果

12 団体へのヒアリング調査の主な結果については、以下のとおり。

【文化芸術団体】

➤ 【 活動上の課題 現状と今後の展望 】

- ・ 若い方の入会は本当に少なく会員の減少が続いています。やはり文化芸術は小さいときから教育というか、関心を持ってもらうことが大切で、それにはどうするかが課題です。また、会員の減少による運営費の確保が困難になってきています。
- ・ P R 不足でせっかくの行事や催事を知らない方が多いと思います。若い人へのアピールの為にネット配信等を重視していきたい。
- ・ 進学の都合等で脱退者が多く、団員の年々減少している。それに伴い収入も減少するため資金面も苦しい。各コミュセンのイベント等で団員を募り活性化を図る。
- ・ 団体としての発表の機会は経済的な理由から年1回となっている。展示会場のセットを外部委託すると数百万円かかるため、自力でまかなっている。しかし会員の高齢化が進む中、いずれ限界が訪れる。資金面と情報発信の面で支援をいただきたい。
- ・ 女性会員が結婚や出産を機に活動をやめてしまうことが多い。育児しながらでも活動を継続していける支援体制が必要である。
- ・ 幸い当団においては若い世代の新規入団もあり規模的には現状維持できている。担当楽器の人数にばらつきがあり、人員過剰な楽器もあれば他楽団から助けてもらう楽器もある。そのため一層の団員増は必要である。また演奏会の来場者もかつてに比すれば減少していることを痛感している。ホームページを刷新済みであり今後の入団者や来場者の増加につなげていきたい。

- ・ 来場者（公演のチケットの自主購入層）を増やすためにも効果的な情報の発信について検討していきたい。
 - ・ 結成当時 30 歳代だったメンバーがそのままスライドしており、団体として高齢化が進んでいる。そのためアナログな情宣しかできず、組織としての先細り感を感じている。近隣の小規模コーラスグループの合併や併合によりそれぞれの存続を図っていく。人数が確保できれば個人負担も緩和される。ただ現状より広域なグループとなるため交通の利便性に支障をきたす可能性がある。
- 《高齢化》と、団員募集や発表の《情報発信》を課題に挙げる団体が多数を占めた。それぞれ独自に対応を図っているようだが行政の支援を望む声も多かった。

➤ 【 市の文化施設について 】

- ・ 古典芸能のできる場所がなかなか無いことと、楽屋のスペースが無い、もしくはとても不便。
- ・ 設備面では概ね満足している。費用の面で当団の趣旨、活動を考慮して（今でも十分安いとは思っているが）減免を考慮してほしい。
- ・ 利用する施設は基本バリアフリー化がなされているが、大掛かりなセットや作品を搬入する際手間取る施設もある。
- ・ 公演に利用できる施設は限定されており、バリアフリー化も完了しているが、古い建物もあり十分とは言い切れない。新しい市民会館には期待している。
- ・ 各施設において駐車場が少ないことが多いので改善を希望するが、土地あつての事なのであきらめている。新市民会館では改善されることを期待する。
- ・ 各コミュセンの駐車場が時間帯によっては満車となることが多々ある。また多目的ホールは（防音されているが、少人数で利用するに

は) 無駄に広く、料金が低い。程よい部屋は防音されていないため周囲に気を遣ってしまう。

○市の施設については概ね満足している意見が大勢を占めた。駐車場の不足や料金の不満の意見があった。

➤ 【 文化芸術に親しむ人の裾野の拡大について 】

- ・ 取り巻く環境は厳しいものがあるが、継続して団員を募集し裾野の拡大につなげたい。
- ・ 後継者育成は、最優先されなければと思っています。できるだけ参加しやすい活動を考えなければならないし、そのことの広報もしっかりしなければならないと考えています。
- ・ 文化芸術活動の発表の機関と機会が少ないと思います。各方面の連絡を密にして、異分野との交流を図り、発表の場を広げていくことも大切ではないかと感じます。文化芸術という枠を広げ、今後は異分野とのコラボした活動にも目を向けて、その成果を合同で発表する場を設けることも活性化につながっていくのではないかと考えます。
- ・ 市報等に「公民館フェスティバル」情報を大きく載せ、市報の発信力を活かせば良いのではないのでしょうか。すでに基盤ができている活動の活性化・拡大が必要と思います。
- ・ 本物を見たり聴いたりし、小さい頃から文化芸術に触れられる体制を小中学校にアピールしていく。“文化芸術”が健康な生活を支え、生きていくうえで重要な価値があり、“長生き”や“楽しく生きる”ことにつながることを多方面から知ってもらう活動が必要と考える。
- ・ 発表の機会に他の分野の団体も一緒に展示し、来場者向けに各分野の講習会を実施し、好評を得ている。こういった活動の分野や場

所・機会を広げていくことにより裾野の拡大につながっていくと考える。

- ・ 発表の機会に他の分野の団体も一緒に展示し、来場者向けに各分野の講習会を実施し、好評を得ている。こういった活動の分野や場所・機会を広げていくことにより裾野の拡大につながっていくと考える。
- ・ 全国的にもレベルが高いといわれる公演を実際に見て、本物の「オペラ」に触れてもらうためにも情報の発信と、価値のアピールを強化していきたい。
- ・ 毎年、定期公演の前月頃子供たちを対象としたワークショップを開催している。将来のオペラ文化の担い手として成長してくれることを期待している。
- ・ SNSによる情報発信から新たに入団した者もいる。随時情報を発信していき若者に幅広く音楽に接してもらう機会を持っていきたい。各学校の部活動への支援を厚くしていくことも必要ではないか。
- ・ 市民大学等の公民館活動を充実させていくことが必要ではないかと考えます。複数の地区で行われている活動を統合するなどにより、より充実したプロの指導を受けられるようにすれば参加者も増えていくのではないかと考えます。

○まず公演や発表を見に来てもらい、自分たちが携わっている文化に触れてもらうことが第一歩であると考えている団体がほとんどであった。学校教育への組み込みを提案をする団体もあった。

➤ 【 和歌山市の文化をより豊かにするために 】

- ・ 当団の活動は将来的に和歌山の音楽文化を背負っていく人材の育成につながっており、団員を増やしていきたいと考えている。ただ学

業優先や家庭の事情で活動を継続できないものも多く、「継続していくための支援」が必要となってくるかもしれない。

- ・ 和歌山市における様々な文化芸術活動全般が一堂に会して一体的なイベントを行うようなことがあったらよいと思う。
- ・ 他分野との共催等により、他分野との交流が進み、和歌山の文化の発展につながっていくと考える。
- ・ 私たちが行っているオペラが全国的にも質が高いものであることを知ってもらい、オペラ文化に触れてもらう（=鑑賞してもらう）ことがスタートラインと考える。そのために情報の広くて深い発信が必要であり、行政の支援を期待する。また、子供達が芸術に触れる機会を増やすために教育の一環としてオペラやコンサートに参加していくことも将来的な文化風土の醸成につながっていくと考える。
- ・ 小中学校や高等学校の音楽授業や部活動を通じて音楽に関心を持ってくれる人を増やしていく必要性を感じる。
- ・ 若い世代に若いうちからいいもの（一流の文化・芸術）に触れるきっかけを増やしていけば豊かな文化が醸成されると考えます。
- ・ 伝統芸能・芸術への感心と理解を深め、継承していくためには、活動の機会と発信できる場所の確保が重要となってきます。今後の重要な課題として、伝統芸能・芸術を担う人材の育成と確保、加えて公的機関の協力とサポートが和歌山の文化芸術を次世代につなぐ鍵となると考えます。

○現在団体に所属し文化活動を行っている人が活動を継続していくこと、活動していない人に文化・芸術に触れてもらい参加していくこと、文化団体相互の交流を深めていくこと、等の意見が挙げられた。学校教育（部活動も含め）に文化・芸術を組み込む提案もあった。

【障害者団体】

➤ 【 発表する機会・場所 】

- ・ 市役所 1 階市民ギャラリー（絵画）
- ・ ビッグホエール（絵画）
- ・ プラザホープ（絵画）
- ・ 県民文化会館（絵画）
- ・ 地元の文化イベント会場（立体製作物）
- ・ 自団体ホームページへの掲載や新聞・ラジオへの投稿（俳句・川柳等）
- ・ 施設外のイベントに積極的に参加（コーラス）
- ・ 自団体施設内で常設展示やイベント展示・発表

○年に 1 回以上のペースで発表の機会を設けている団体がほとんどであった。発表の場所については集客力があり程よい広さで料金が手ごろな所を選んでいる例が多かった。

➤ 【 文化芸術に関する情報の充足度 】

- ・ 障害がある人に対する文化・芸術活動に関する情報は皆無。
- ・ 「和歌山県アールブリュット実行委員」なのでそちらから情報を得ている。
- ・ 現状障害者や団体・施設を対象とした文化・芸術面の情報はほぼ無い。
- ・ 巷にあふれている情報を点訳・音訳する必要があるためタイムリーな情報が得られない。

- ・ 文化・芸術面の情報はほぼ無いが、活動歴も長く実績もある為、現状では特に情報を必要としていない。
- ・ 障害団体全体としては文化・芸術活動における横のつながりが希薄。

○すべての団体が情報の少ない（というか無い）と回答した。その中でそれぞれ独自に情報を入手していた。

➤ **【 文化芸術活動をするうえで必要な支援・必要な情報 】**

- ・ 障害がある人の文化・芸術活動に理解がある指導者の紹介・斡旋、情報の提供。また、将来を見据えてそのような人材の育成。
- ・ 施設外での展示・発表機会の提供。
- ・ 点訳・音訳が往復で必要なためそれに伴う財政的支援。
- ・ 現状は必要ないが将来新たな活動を始める際には人材やノウハウの情報が必要。
- ・ 県・市の内外を問わず他事業所や団体の作品展開催の情報や活動内容について広域の情報の提供。
- ・ 対象者を正しく導き伸ばしてくれる指導者の育成。
- ・ コンサートや講演などの会場やアーティストや講師・チケット料金・開催日・障害者への合理的配慮の有無等の情報。

○ほとんどの団体で指導者（ボランティア）に関する支援（紹介・斡旋・育成など）を求める意見が出た。

➤ 【 活動してよかったとおもうこと 】

- ・ 目標をたてることで、日々練習に励み、協調性や社会性がやしなわれ、日常をはつらつと楽しく過ごせている。自分の興味のあることをする、発表して称賛を浴びることによりそれぞれの生きがいとなっている。作品が完成したときやコンサートをやり切ったときの達成感や地域の方々の称賛は利用者の励みになり、生活していく上での楽しみが増えている。
- ・ 創作活動やスポーツをおこなうことは、利用者一人ひとりの隠れた個性を見つけるうえで非常に有益なツールのひとつとして活用できている。作品が完成したときの達成感や地域の方々の称賛は製作者にとって代えがたい励みになり、生活していく上での楽しみが増えている。
- ・ 現状では作品が直接的に仕事や収入につながっていないが、他事業所にてその前例も多々あり、今後利用者の自立につなげていければと考えている。
- ・ 絵画において、完成に対する達成感と自身の作品が展示される喜びを創作者が感じる事ができたであろうことは文化芸術活動のおおきな成果であったと思う。
- ・ 作品が直接的に仕事や収入につながることはほぼないが、1つのことを根気よく続けられたことは成長につながっていてほしいと考える。
- ・ 健常者との交流・個々人の精神的安定・発表の場での自分の名前を見つけたときの感動・生活の充実感・会活動の活性化・生き甲斐の創出

○ほぼすべての団体が、充実感・達成感・生き甲斐の創出・励み等のキーワードでそれぞれの成長につながっている点を挙げた。
地元や健常者との交流を挙げた団体もあった。

➤ 【 文化芸術に関して期待すること 】

- ・ 発表の準備・後片付けを自分達で行うことにより、楽しみながら協調性や社会性が養われていると感じる。現在は一部の利用者だが、将来的には他の活動も出来ればより多くの利用者が参加できるようになる。ただ、新しいことを始めるには労力が必要であり、その際には行政の支援や指導があればよいと思う。
- ・ 現状では文化芸術が入所者の自立に直結するわけではないが、生活していく上でのレクリエーションとしてや、リハビリの一環として楽しみながら行っていけるようになればよいと思う。また、生活の上では難しいかもしれないが、文化芸術はいわゆるノーマライゼーションの理念を実現しやすい分野だと考える。健常者も障がい者も分け隔てなく同じテーブルで評価される土壌づくりを期待します。
- ・ 障害を持つ利用者が社会の中でその個性を認められ、各自も社会参加しているという自覚を持つていくことを期待します。
- ・ 健常者と交わることで障害についての理解も深まるのではないか。障害者としての可能性を広げられる一つ的手段にはならないか。障害者の可能性を理解してもらうことで、たとえば、就職の幅が広がったり、活躍の場の開拓に繋がらないか。娯楽の少ない障害者にとって日々の生活の潤いと、生き甲斐の創出が期待できる。
- ・ 指導者の育成と情報の収集と提供。
- ・ 常設の展示スペースがあるに越したことはないが、いつも展示してあると飽きられて見てもらえなくなりがちなため、市が主催する恒例イベントの際に便乗して展示スペースを設けてもらい、啓発活動にもつなげていければと考える。

○ほとんどの団体が文化芸術活動を通じて健常者との交流、相互理解をすすめて、また自らの成長につながることを挙げた。